

考え方・議論する道徳を基にした授業の工夫 ～問題意識をもち、自分との関わりで考える展開～

提案者 栃教協教研推進委員会 教員部
栃木市立家中小学校 教諭 渡邊 一利

I 研究主題設定の理由

栃教協教研推進委員会教員部では、平成29年度より3ヵ年計画で、道徳の評価について研究を進めてきた。評価の手段としての評価シートの活用方法や評価の観点の精選といった研究を通して、現在の評価シートの形を完成させ、日々の指導と評価に生かしてきた。

次に、令和2年度より「登場人物への自我関与」をさせやすい教材を選び、効果的な指導法について研究を進めてきた。その最中に新型コロナ感染症流行により、タブレットを使った指導法の開発が急務とされた。そこで、授業にタブレットを用いた活動を取り入れることで登場人物への自我関与をしやすくすることができないか、また、道徳的価値の理解を深め道徳的実践力を高めることができないかと考え、研究を進めた成果として、幅広い事例を集めることができた。

今年度はタブレットの効果的な活用を視野にいれながら、改めて「考え方・議論する道徳」の授業を追求することにした。身近でないことでも道徳の学習の中では「自分ごと」として考えることが必要とされる。特に道徳の授業で求められる問題意識を自分の身近なことに置き換えて考えることができるかどうかで、学習の効果が大きく変わると考える。そこで授業の展開でどのような工夫をすることで、児童生徒が自分の考えをもち、それを基にした議論を進めることができるのかについて、提案していく。

II 研究主題について

○「問題意識をもつ」・「自分との関わりで考える」ことを意識した展開の吟味

まず、「問題意識をもつ」とは、導入において、主体的な学びの実現のためにも、主題や教材の内容に興味や関心だけでなく、本時の主題に対する問題意識をもたせて授業を展開できるようにすること。次に、「自分との関わりで考える」とは、主題に対する問題を自分との関わりとして、これまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、深く考えることができるようすること。平成31年と令和2年に栃木県総合教育センターから発刊された【「考え方・議論する道徳」の授業づくり】に示されている四つの学習に関する指導の中で、特にこの二つを展開の軸として、どのように授業を組み立てるかで、「考え方・議論する道徳」の授業にしていくのか、研究していく。

III 研究の仮説

子供が主体的に道徳性を養っていくために、これから道徳科の授業では、子供の実態に合った学習指導過程や学習方法を工夫改善しながら「考え、議論する道徳」の授業へと質的変換を図っていくことが求められる。そこで、栃木県総合教育センターから示された「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動について指導の工夫改善を行なながら日々の授業を展開することで、「考え、議論する道徳」の授業への質的変換を図ることができるのではないかと仮説を立てた。

IV 研究の内容

教研教員部では、これまでの研究を踏まえて、「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動について指導の工夫改善に取り組む研究を柱として、「考え、議論する道徳」の授業づくりを目指す中で、子供たちの道徳性を養いながら道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきたいと考えている。

①事前アンケートの内容を通した問題意識の高揚（自分のこととして）

これまで、本時に展開される内容に関連したことについて、授業前にアンケートを実施することで、その内容についての数量的に把握することは行われている。今回の研究では、さらに効果的にアンケートを活用するために、取り上げる内容については問題場面につながるような項目と自由記述の構成についている。このアンケートを導入時と終末時で使うことによって、問題場面の際の気持ちや行為について考えさせ、自分事として主題に対する問題意識をもたせることを狙いとしている。

②本音で議論する活動を通して、自分との関わりで考える

問題場面では、多数派となる正しい行動についてきちんと取り上げるが、ここでは、誰もがもっている「人間の弱さ」ゆえに起こる心の葛藤の部分に焦点を当てたい。そして、建て前ではなく本音の気持ちを交流させることで、「自分との関わり」の部分を捉えさせ、実感をともなって「正しい行動」について考えさせていきたい。

V 成果と課題

成果については、事前にアンケートを取り、導入時と終末時にその結果を提示し、その内容を確認することが、自分の身近で起きている「自分事」として問題意識をもつことにつながっていた。また、議論のテーマとして、あえて正論ではない少数派の意見を取り上げたことが、断ることの難しさと人間の弱さについて共感させることにつながり、自分との関わりの中で、本当に正しい行動について考えることができた。

課題については、問題意識をもち自分との関わりで考え、道徳的判断力や心情が育ったと見取れた後、実践力をどのようにして付けていくかという点があげられる。